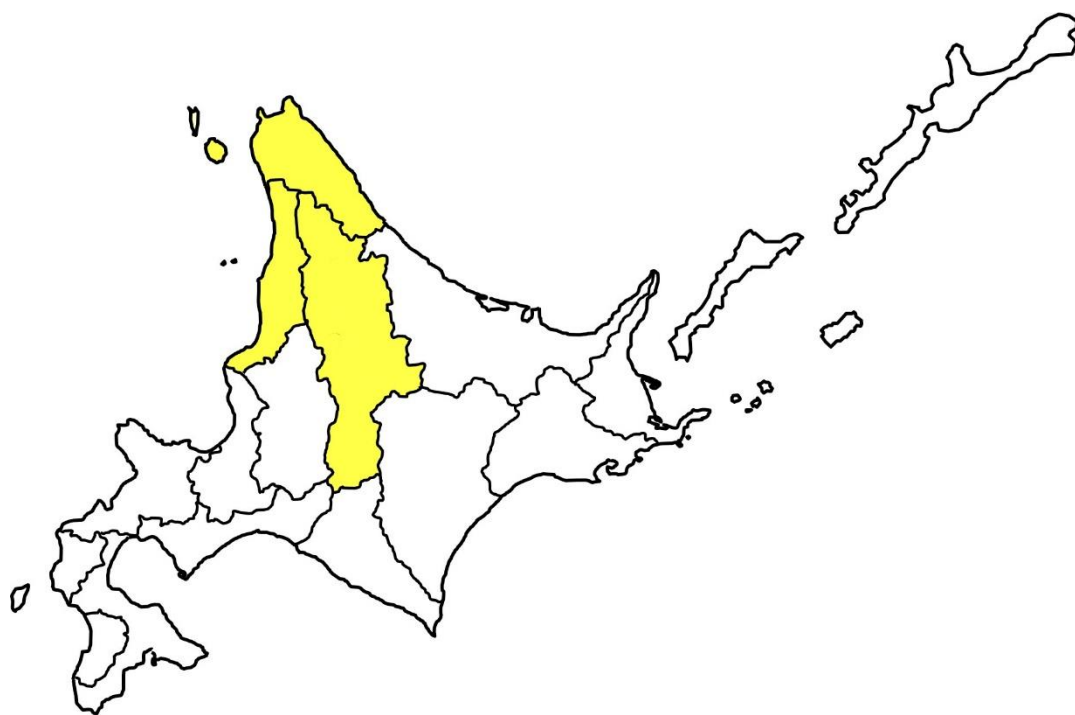


# 道北連携地域 政策展開方針 〔次期方針（素案）〕

上川地域、留萌地域、宗谷地域



令和6年11月



# 目 次

1	はじめに	1
	基本的な考え方	
	方針の位置づけ	
	方針の構成	
	方針の推進期間	
2	地域のめざす姿	3
3	地域を取り巻く状況	4
	人口減少・少子高齢化の動向	
	経済・産業の動向	
4	これまでの取組と課題	12
	連携地域のこれまでの取組と課題	
	振興局所管地域の主な課題	
5	主な施策の展開方向	20
	連携地域の主な施策の方向	
	振興局所管地域の重点的な施策の方向	
6	地域重点政策ユニット	22
7	方針の推進	69
	推進の考え方	
	効果的な推進	
	推進管理の体制	
8	附属資料	71

※附属資料は、原案においてお示しする予定です。

(注) 本文中の「○○○\*」は、用語解説に掲載する用語を示すもの。

# 1 はじめに

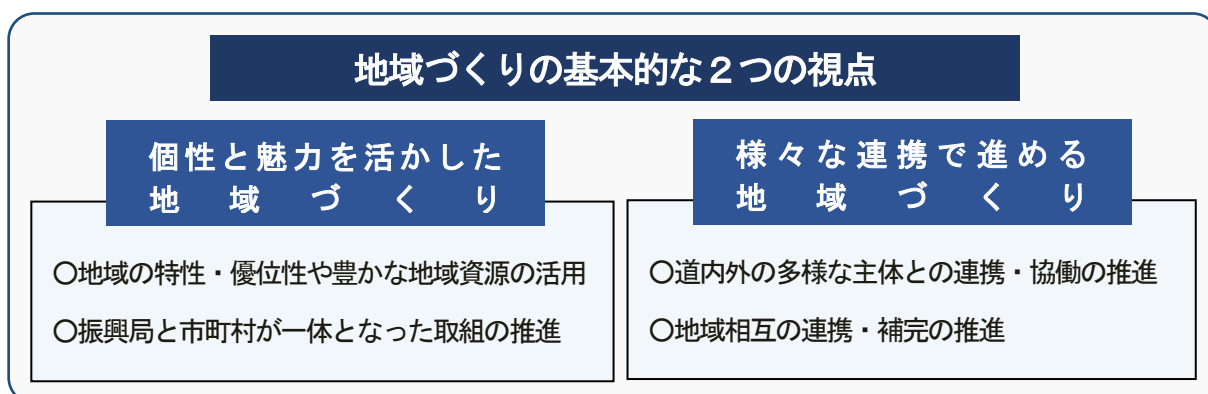
## 基本的な考え方

人口減少と少子高齢化が急速に進む中、人口の偏在や地域社会の縮小など、地域の課題も多様化していますが、本道の多くの地域においては、経済・産業や暮らしに直結する課題に加え、激甚化する自然災害や巨大地震の発生リスクへの備え、さらには、国際情勢の変化を背景としたエネルギーの安定供給、食料や経済の安全保障など、様々な重要課題に直面しています。

一方、我が国最大の供給力と高い品質を誇る農水産物、魅力あふれる食や観光、豊富に賦存する再生可能エネルギーや豊かな自然環境など、それぞれの地域が持つ特性やポテンシャルを活かした取組が一層重要となっているほか、ICTやAIなどデジタル技術の様々な分野への活用、脱炭素化の取組など、社会が大きく変革する動きが各地域において広がりを見せています。

こうした中、各地域がそれぞれの変化や課題に柔軟に対応し、将来にわたって発展していくためには、道民及び市町村の創意と主体性が発揮され、地域固有の特性や多彩な地域資源などをこれまで以上に活用した取組や人口減少の抑制に向けた取組を持続的に進めるとともに、市町村、振興局所管地域、連携地域はもとより、医療圏や地域福祉圏など行政区域や住民生活に根ざした様々な地域単位で、ネットワーク化を進め情報や知見を共有し、適切な役割分担を図るなど、相互に連携・補完し合うことが必要であり、さらには、官民連携をはじめ多様な主体が連携・協働していくことが重要となります。

この方針は、北海道総合計画（以下、「総合計画」という。）第4章に掲げる次の基本的な2つの視点に基づき、第3章に掲げる「潜在力発揮による成長」、「誰もが可能性を発揮できる社会と安全・安心な暮らし」、「各地域の持続的な発展」の3つの政策展開の基本方向も踏まえながら、北海道地域振興条例の基本理念である「道民及び市町村の創意と主体性」、「道民、市町村、道の協働」及び「地域相互の連携と補完」という考え方のもと、地域の総力により地域づくりを進めるため、市町村や地域の関係者の参画を得て、振興局が主体となり策定します。



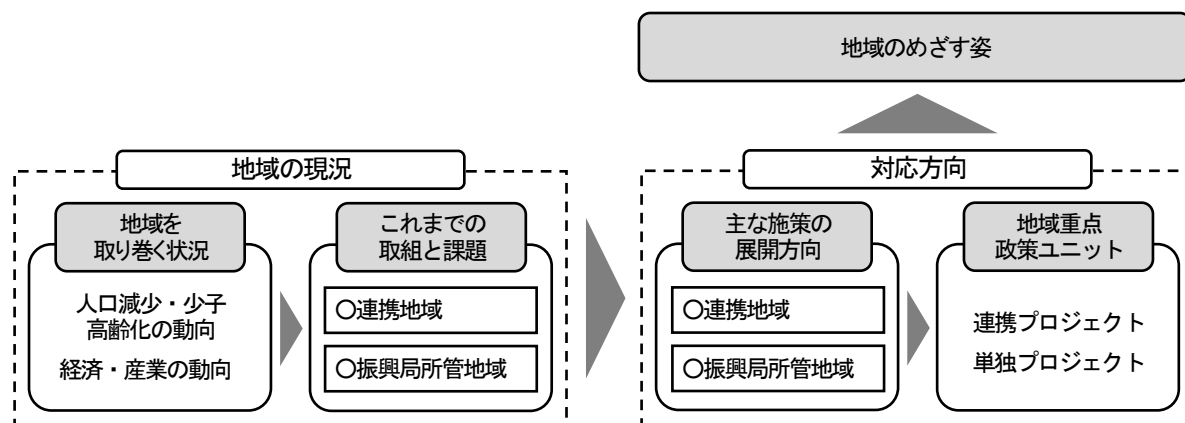
## 方針の位置づけ

この方針は、北海道地域振興条例第5条に基づき総合計画が示す政策の基本的な方向に沿って、広域的な地域の区分ごとに地域振興を効果的に推進するための地域計画として策定するものであり、総合計画を推進する手立ての一つとなるものです。

また、総合計画に基づく重点戦略計画である北海道創生総合戦略の「地域戦略」としての位置付けを併せ持つものです。

## 方針の構成

地域のめざす姿	・総合計画の終期である令和16年度を目途（概ね10年後）にめざす地域の姿を示しています。
地域を取り巻く状況	・人口減少・少子高齢化の動向と経済・産業の動向の観点による地域の現況を示しています。
これまでの取組と課題	・連携地域と振興局所管地域におけるこれまでの取組と今後の課題を示しています。
主な施策の展開方向	・方針の推進期間における連携地域の主な施策の方向、振興局所管地域の重点的な施策の方向を示しています。
地域重点政策ユニット	・「主な施策の展開方向」に基づき、重点的に取り組むプロジェクトを示しています。



## 方針の推進期間

令和7年度（令和7年4月）から概ね5年

## 2 地域のめざす姿

---

天塩川や大雪山、日本海オロロンライン、  
利尻礼文サロベツ国立公園など  
広大な土地や特色ある自然環境などの  
多種多様な地域資源を活用した産業を振興し、  
いつまでも心豊かで  
安心して暮らすことのできる活力ある  
「道北連携地域」

高品質米を産出する稲作、多種多様な畑作、大規模な酪農、海域の特性を活かした漁業、豊富な森林資源を背景とした林業など、農林水産資源を活用した持続的な産業の振興に取り組めます。

多様な観光資源を活かしたアドベンチャートラベルの推進など、付加価値の高い魅力あふれる観光振興に取り組むとともに、風力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの活用など、豊かな自然と調和した脱炭素型の地域づくりを進めます。

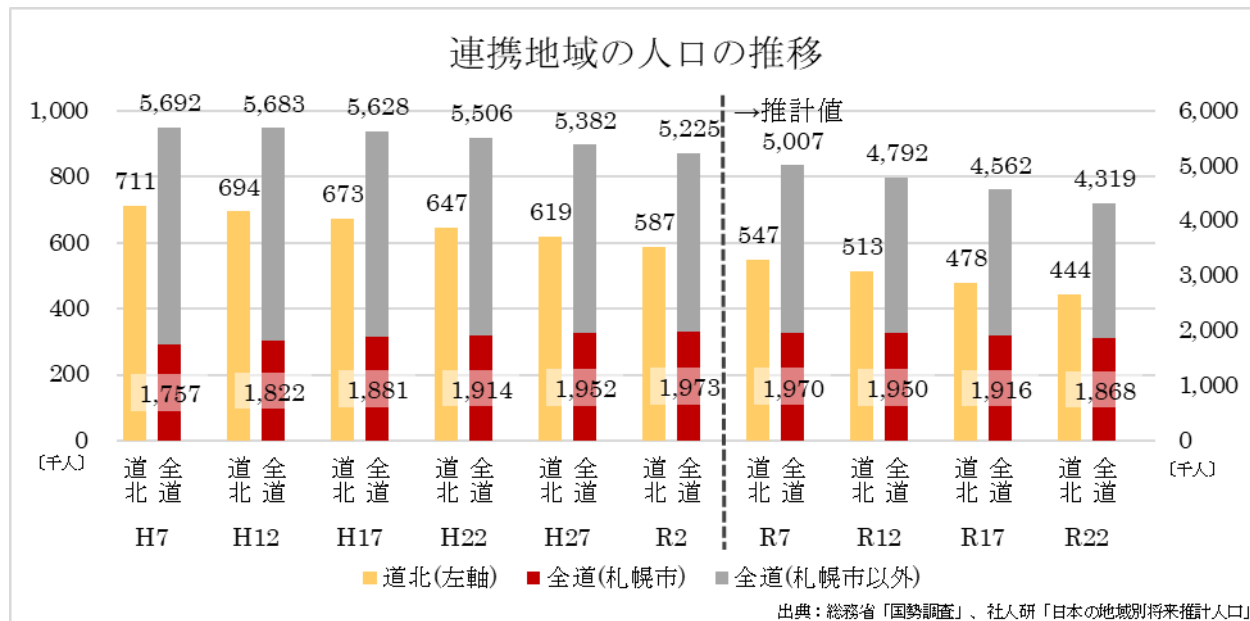
また、離島振興に取り組むとともに、地域の魅力ある資源を活かした移住・定住の促進や地域おこし協力隊を含めた外部人材の活用など関係人口の創出・拡大に向けた取組を進めます。

### 3 地域を取り巻く状況

#### 人口減少・少子高齢化の動向（連携地域）

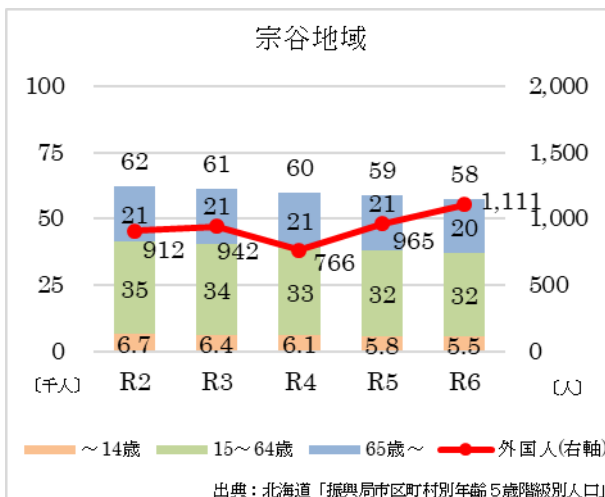
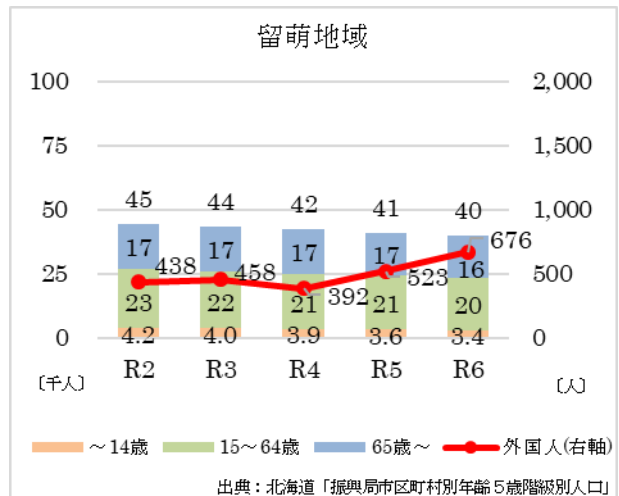
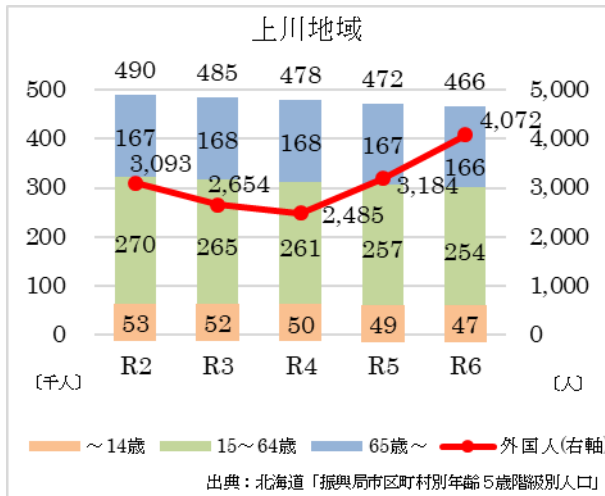
##### 【人口の推移】

道北連携地域の人口は、約 59 万人で全道の約 11%を占めています（R2時点）。人口は今後 20年で約 24%減少し、全道に占める割合も減少する見通しです。



### 【振興局別の人口の動向】

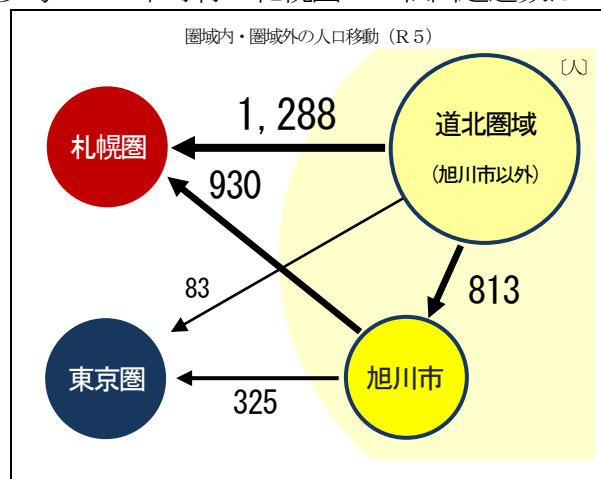
直近5年間の人口を振興局地域別に見ると、どの地域も生産年齢人口が減少傾向ですが、外国人人口は増加傾向にあります。



### 【社会増減】

連携地域における圏域内・圏域外の人口移動を見ると、旭川市に対して813人の転出超過となっています。

札幌圏（札幌市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市）に対しては2,218人の転出超過となっています。（参考：173市町村の札幌圏への転出超過数は11,362人）

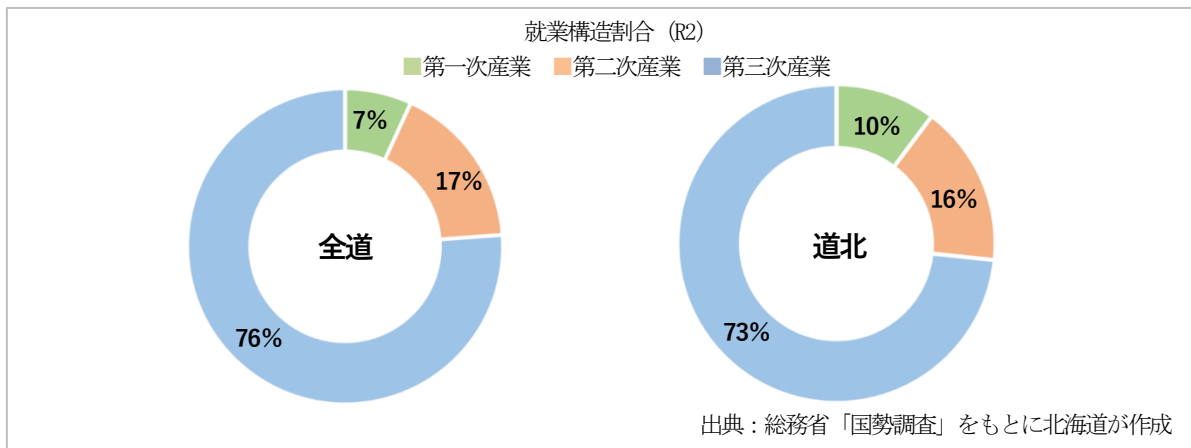


出典：北海道「北海道人口動態実態調査・要因分析事業」  
 ※北海道「振興局市区別道外転入転出者数」をもとに作成

## 経済・産業の動向（道北連携地域）

### 【経済・産業全般】

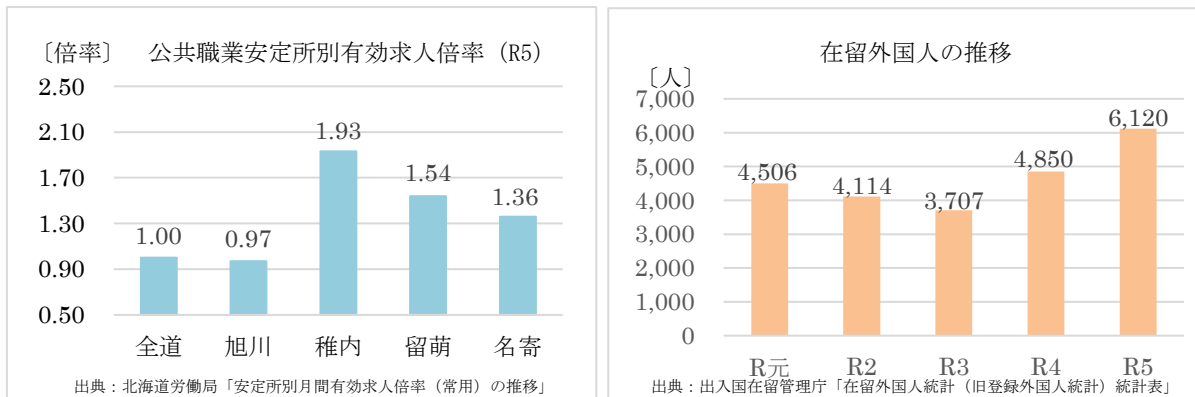
道北連携地域の就業構造は、全道と比較して第一次産業の割合が高いことが特徴です。



### 【雇用・労働】

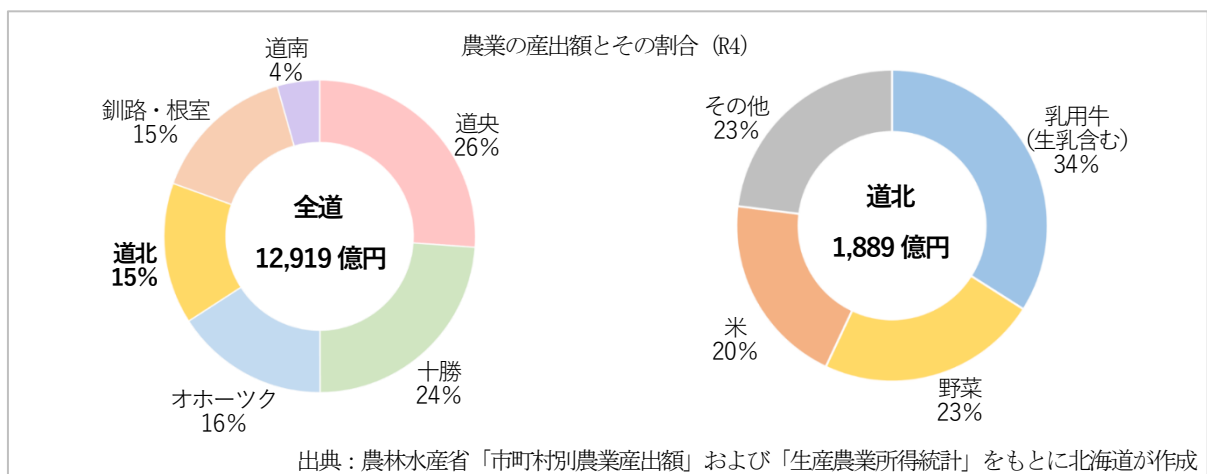
雇用・労働については、農業・漁業をはじめ地域の有効求人倍率（稚内・留萌・名寄公共職業安定所）が全道平均を大きく上回っており、人材不足が顕著な地域となっています。

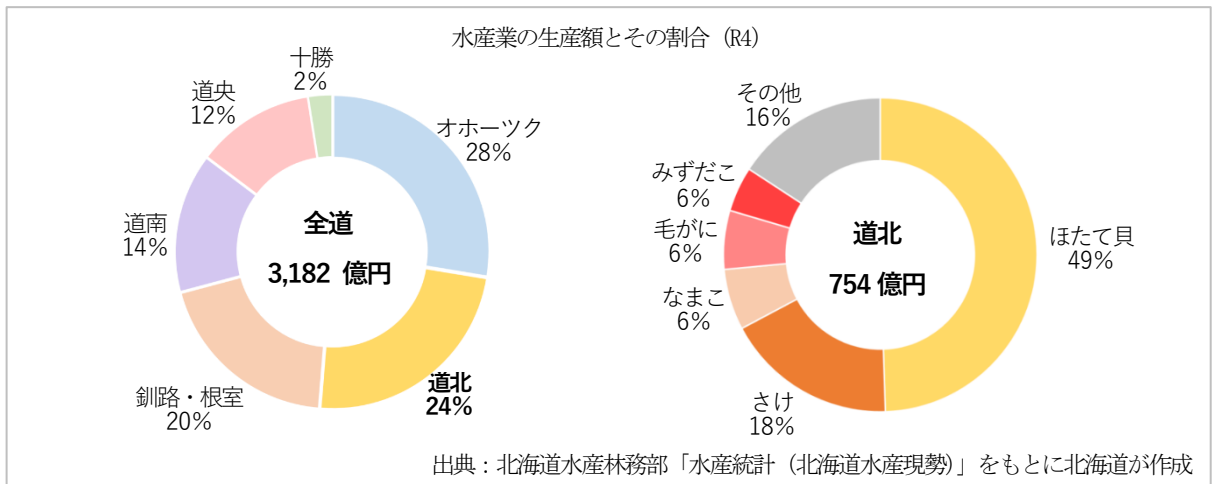
一方で、地域の担い手として、食品製造や建設業などの分野では、外国人技能実習生の増加が著しく、当連携地域の在留外国人数は増加傾向にあります。



### 【食】

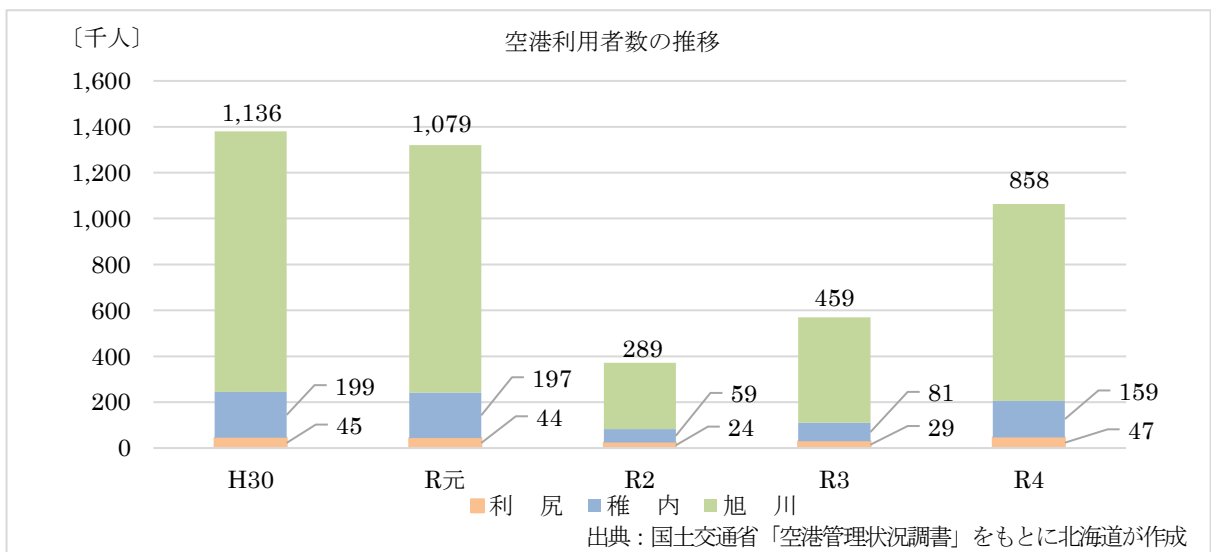
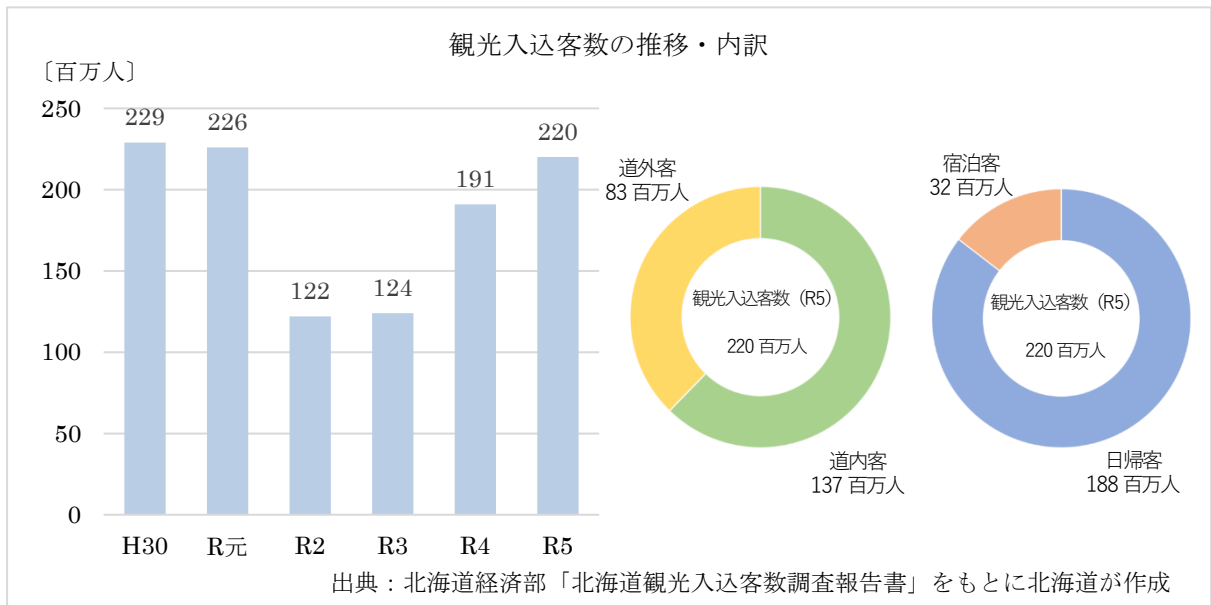
食については、農業の産出額は全道の15%を、水産業の生産額は全道の24%を占めており、当連携地域における重要な基幹産業となっております。





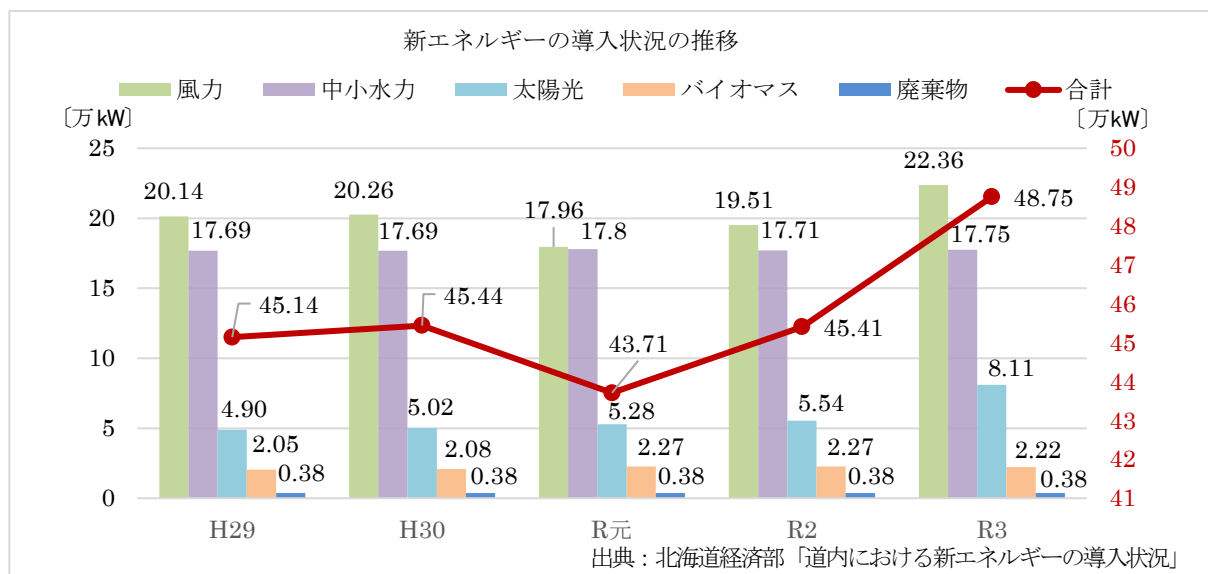
### 【観光】

観光入込客数は、道内客が過半数を占めているほか、道北観光の玄関口となる管内空港の利用者数は、コロナ禍前（R元）と比較し、約8割の水準まで回復しています。



## 【エネルギー】

エネルギーについては、自然エネルギーが豊富に存在している当連携地域では、風力や中小水力、太陽光など多様な再生可能エネルギーの導入が進められており、大規模な風力発電施設の建設や送電網の整備に伴い、その設備容量は増加傾向にあります。

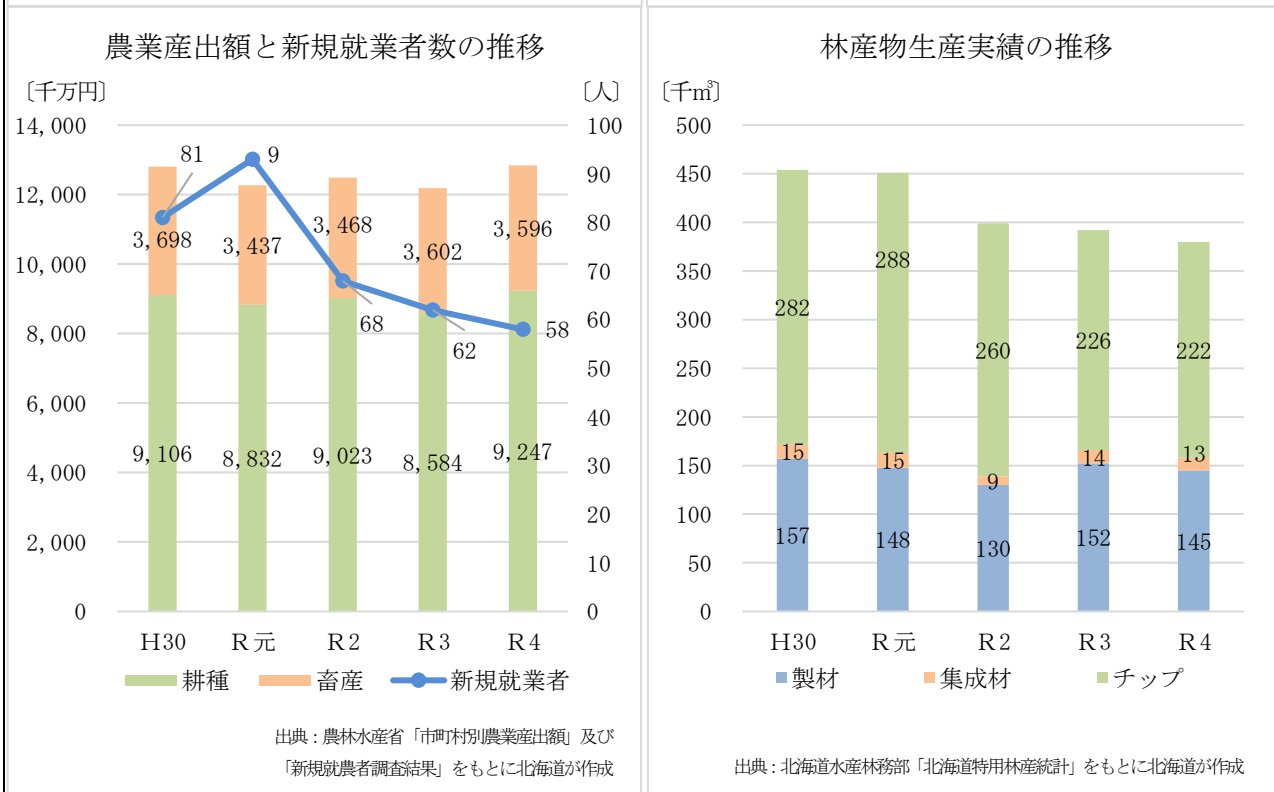
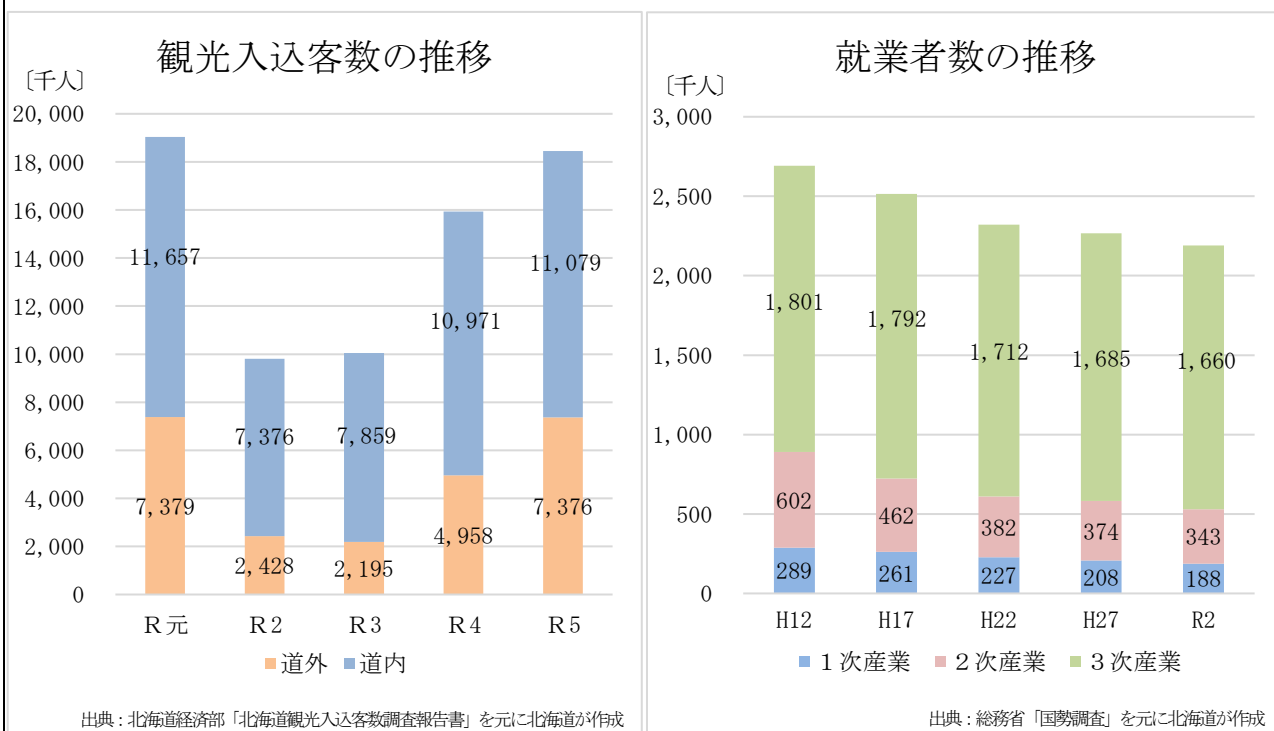


## 経済・産業の動向（上川地域）

上川地域における観光入込客数は道外客より道内客が多い傾向で、全体の数としてはコロナ禍前（R元）と比較すると9割以上の水準まで回復しています。

就業者数は、全体的に減少しており、約20年前（H12）と比較すると1次産業は約4割、2次産業は約5割、3次産業は約1割減少しています。

農林業における動向としては、農業の農業産出額は横ばいで推移している一方、新規就業者数は減少傾向です。林業においても、林産物生産実績が減少傾向にあります。



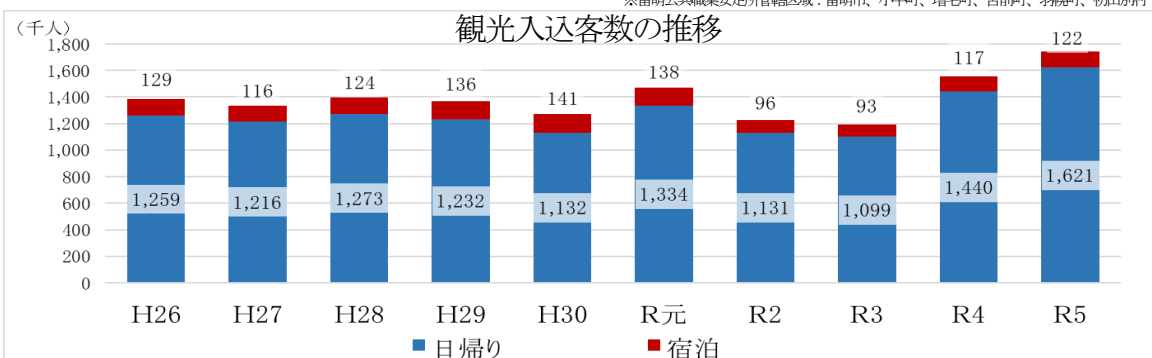
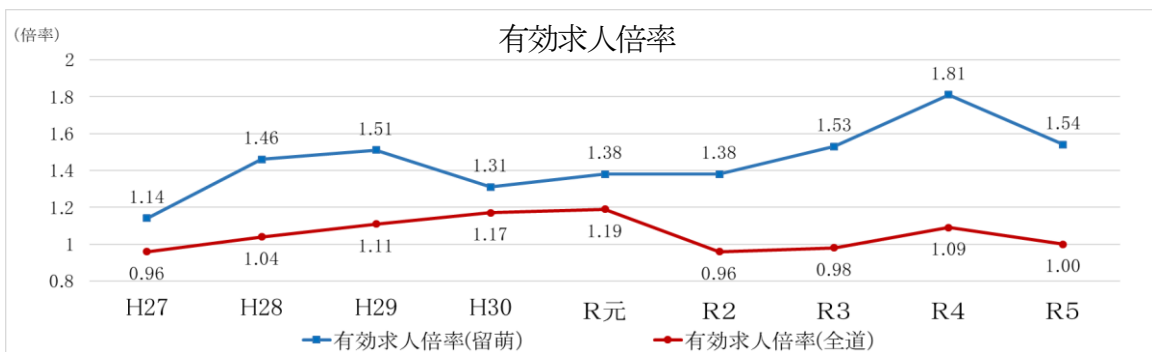
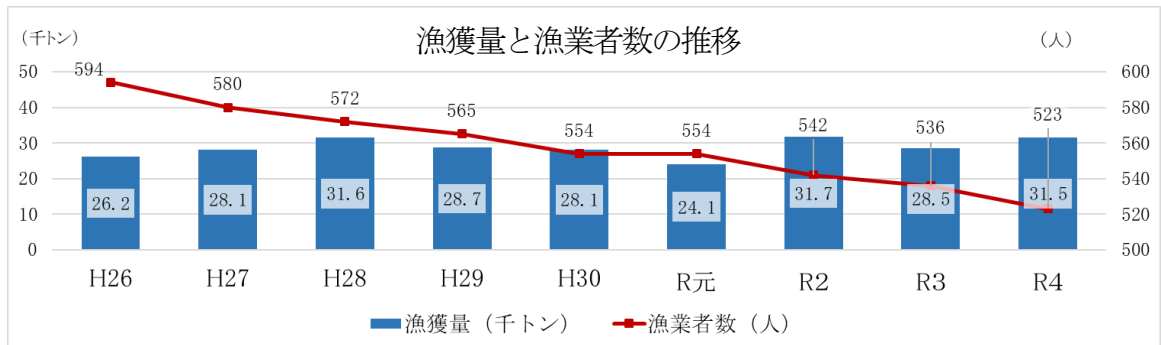
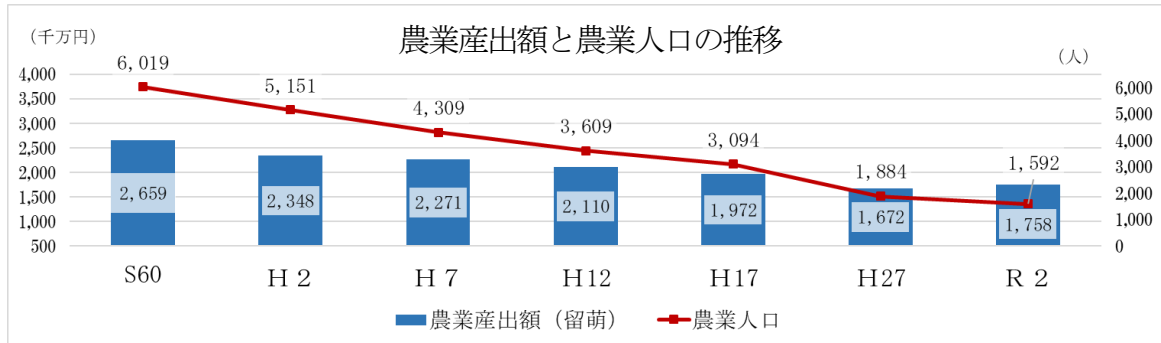
## 経済・産業の動向（留萌地域）

留萌地域は、農業や漁業などの1次産業が基幹産業となっていますが、いずれの産業においても、担い手の減少傾向がみられます。

また、有効求人倍率も全道と比較すると高くなっており、担い手が不足しております。

そのような状況の中、漁獲量については、ほぼ横ばいの推移となっていますが、農業産出額については、緩やかな減少傾向にあります。

また、観光については、入込客数は、ほぼ横ばいの推移となっているほか、道内からの日帰り客が大半を占めるという傾向があります。



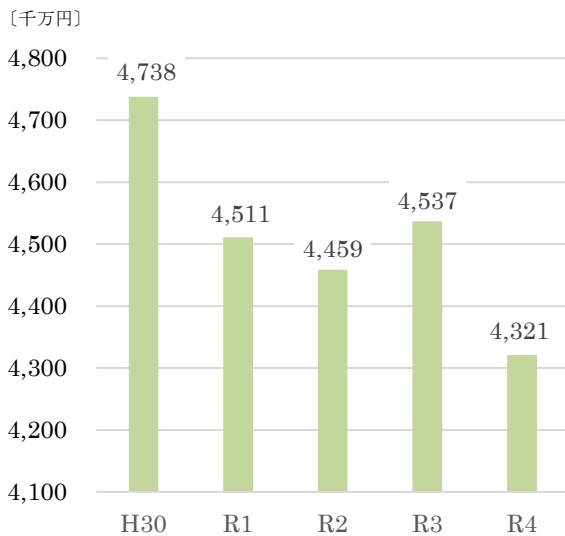
## 経済・産業の動向（宗谷地域）

宗谷管内の農業は、産出額の減少傾向が続いていますが、水産業については、生産量は減少しているものの、魚価の上昇により、生産額としては高い水準にあります。

また、当地域は自然豊かで、風況の良さを活かした風力発電施設の建設が進められており、令和6年3月時点で206基の施設が稼働しています。

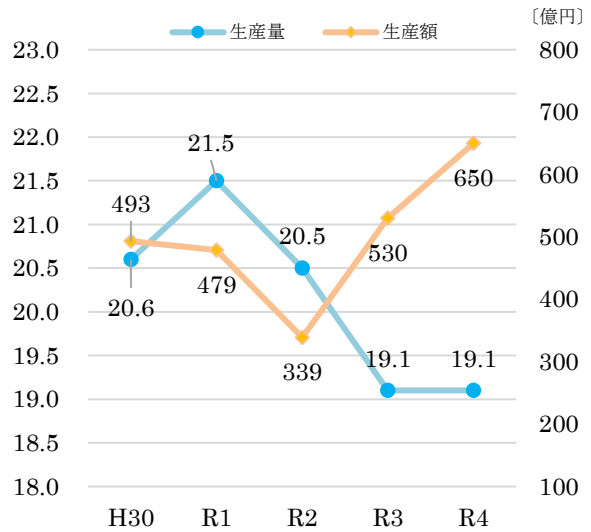
人口減少の進行などに伴い、様々な職種において深刻な人材不足が続いている中、在留外国人は増加傾向にあります。

宗谷管内 農業産出額の推移



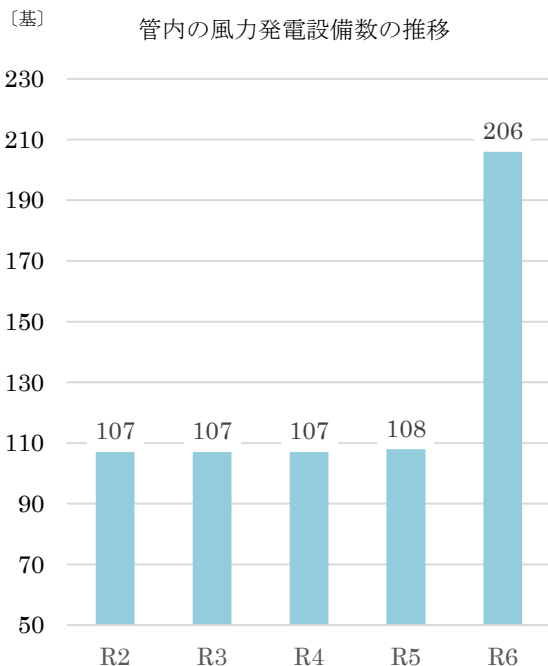
出典：農林水産省「市町村別農業産出額」

宗谷管内 漁業生産量・生産額の推移



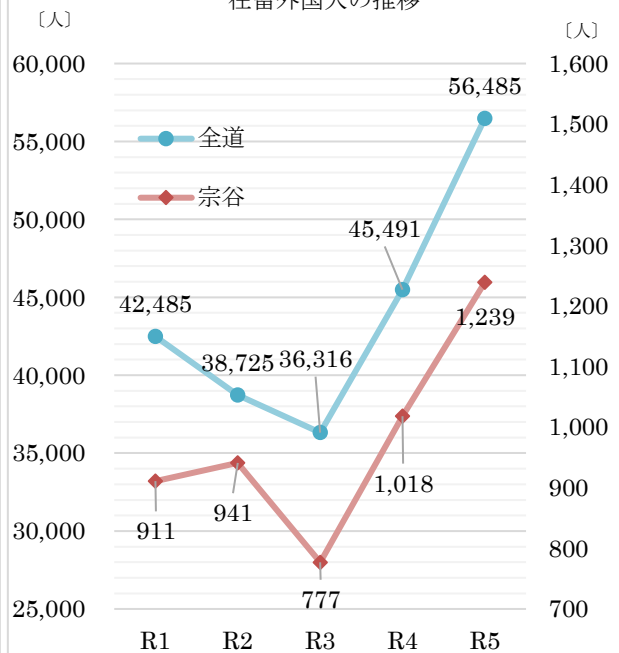
出典：北海道水産林務部「水産統計」

管内の風力発電設備数の推移



出典：北海道宗谷総合振興局商工労働観光課調べ

在留外国人の推移



出典：出入国在留管理庁「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」